

「第8回地盤工学・建設材料及び環境に関する国際会議」に参加して

林 宏親

1. はじめに

平成30年11月20日から22日まで、マレーシアのクアラルンプール市において「第8回地盤工学・建設材料及び環境に関する国際会議（8th International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment: GEOMATE2018）」が開催され、基調講演を行いましたので報告します。

2. 会議の概要

この会議は、土木工学における地盤、材料および環境分野を対象としたもので、平成23年に第1回会議が三重市において行われた後、年に1回開催されてきています。今回の会議では、泥炭地盤に関する研究の権威であるマレーシアプトラ大学のBujang Huat教授（写真-1）が議長を務め、基調講演2件、12のセッションにおける124件の口頭発表およびポスター発表がありました。

3. 講演について

Bujang教授から講演の依頼があり、寒地地盤チームの研究成果を披露する良い機会となりました。「Geotechnical Characterization of Peat Deposit in Japan（日本における泥炭地盤の地盤工学的特性評価）」と題した講演では、泥炭地盤上の盛土のすべり破壊や長期的な沈下など実際に発生した変状事例を交えながら、泥炭の工学的性質の特殊性を寒地地盤チームが実施した試験調査データを使って説明するとともに、JICAプロジェクトへの参画やインドネシア道路工学研究所との研究協力を通じて得た熱帯性泥炭の情報を示しました（写真-2）。聴講者からいくつか質問がありましたので、興味は持ってもらえたと思います。

もう1件の基調講演は、東京都市大学の末政直晃教授による「An Application of Screw Driving Sounding Test to Survey on Liquefaction Potential（液化判定調査におけるスクリュードライビングサウン



写真-1 議長のBujang教授（マレーシアプトラ大学）



写真-2 筆者の講演

ディング試験の適用性）」でした。従来の液化判定法では、標準貫入試験によるN値と採取試料の粒径などから判定することが多いと思いますが、この方法よりも簡便な原位置試験によって判定を行う内容で、宅地造成など地盤調査にコストをかけることが困難な場面において有効な提案でした。

4. おわりに

開会式において、主催者を代表してBujang教授が

挨拶をされましたが、平成30年末で大学を退職される
とのことでした。今回の会議は、それを記念する側面
もあったようですので、講演をする機会が与えられた
のは、泥炭地盤を研究してきた筆者にとって大変に光
栄なことでした。これもひとえに、寒地地盤チームが

研究成果を海外に発信し続けてきたことが契機になっ
ていると思いますので、今後とも泥炭地盤における問
題の解決に向けて研究を継続するとともに、その海外
への発信にも努めていきたいと思っています。



林 宏親
HAYASHI Hirochika

寒地土木研究所
寒地基礎技術研究グループ
寒地地盤チーム
総括主任研究員
博士（工学）
技術士（建設・総合技術監理）
APECエンジニア（Civil）